鳴門海峡架橋西部水域の漁場環境調査

（本州・四国連絡架橋漁業影響調査）（抄録）

天真　正勝

1　目的及び方法

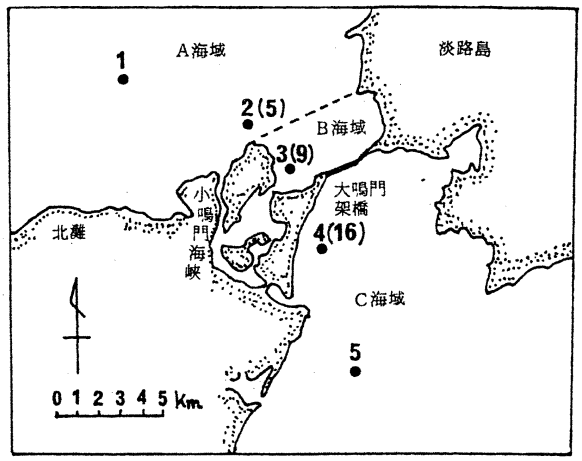
鳴門架橋西部水域周辺における漁場環境,特に濁りの実態を把握する資料を得るため,表1に示したように平成2年に6回,平成3年に2回の計8回実施し,各月の上旬に1回調査を行った。調査地点は図1及び表2に示したように播磨灘海域で3点,紀伊水道海区2点の計5点で実施した。測定と採水を実施した観測層は0m,10m及び底上1m層（または30m層）の3層である。なお,図中の（　）内は昭和63年3月までの調査点である。調査項目は水温・塩分・溶存酸素量・pH・濁度・透明度の6項目である。

表1　調査実施日

年	平成2年						3年	
月	2	3	5	7	9	11	1	3
日	7	5	8	9	3	5	7	4

表2　調査地点一覧　　（　）内は旧St.No.

St.No.	海域区分	北緯	東経
1	A	34°15.40′	134°32.80′
2（5）		34°15.20′	134°36.60′
3（9）	B	34°14.30′	134°37.80′
4（16）	C	34°12.40′	134°38.90′
5		34°09.00′	134°39.80′



(　)内は旧調査点

図１　調査地点図

2　調査結果

調査結果の整理は,過去に用いた海域区分と対応させるため,定点 1,2 を A 海域,定定 3 を B 海域・定点 4・5 を C 海域とした。各海域ごとの例年値（昭和 49～62 年）と今年値の推移を図 2－1 及び図 2－2 に示した。なお,例年値及び今年値は海域別月別の全点調査層平均を用いた。

1) 水温：図 2－1 に示すようにいずれの海域でも同様な推移を示し,全海域では 8.4～26.6℃の間で変動した。平成 2 年 2,3 月は例年よりやや高め,平成 2 年 5,7 月は例年並み,平成 2 年 9,11 月及び平成 3 年 1 月はやや高め,平成 3 年 3 月はやや低めか例年並みであった。

2) 塩分：図 2－1 に示すように A 海域は 31.0～32.7 で変動し,平成 2 年 9 月及び平成 3 年 3 月が高め以外は例年並みかやや低めであった。B 海域は 31.3～32.7 で変動し,A 海域同様平成 2 年 9 月及び平成 3 年 3 月が高めであったが,他の月は低めで経過した。C 海域は 31.7～32.7 で変動し,平成 3 年 1・3 月が例年より高めであったが,他の月は概ね低めであった。

3) 酸素飽和度：図 2－1 に示すように A 海域は約 91～100%,B 海域は約 84～99%,C 海域は約 85～100%でそれぞれ推移した。各海域ともほとんど低めで推移した。

4) pH：図 2－2 に示すようにいずれの海域でも 8.2～8.4 の範囲内で推移し,A 海域は平成 2 年 7・9 月が高めであり,他の月は例年並みか低めであった。B 海域は平成 2 年 5・7・9 月が高め,C 海域は平成 2 年 2・3・9・11 月が低めであったが,他の月は例年並みであった。

5) 濁度：図 2－2 に示すように A 海域は 0.7～1.2ppm,B 海域は 0.7～1.7ppm,C 海域は 0.8～1.7ppm でそれぞれ推移した。ほとんどの海域・月で例年値より低めで経過した。また 3 海域の中では A 海域が最も変動が少ない傾向が窺える。

6) 透明度：図 2－2 に示すように全海域では 5.0～8.0m の間で変動した。A 海域では平成 2 年 7・9 月が高め以外は例年並みか低めで推移した。B 海域は平成 2 年 5・7・9 月がやや高め,平成 3 年 1 月が低め以外は例年並みかやや低めであった。一方,C 海域は平成 2 年 3・5・7 月及び平成 3 年 3 月が例年並み以外は低めで経過した。

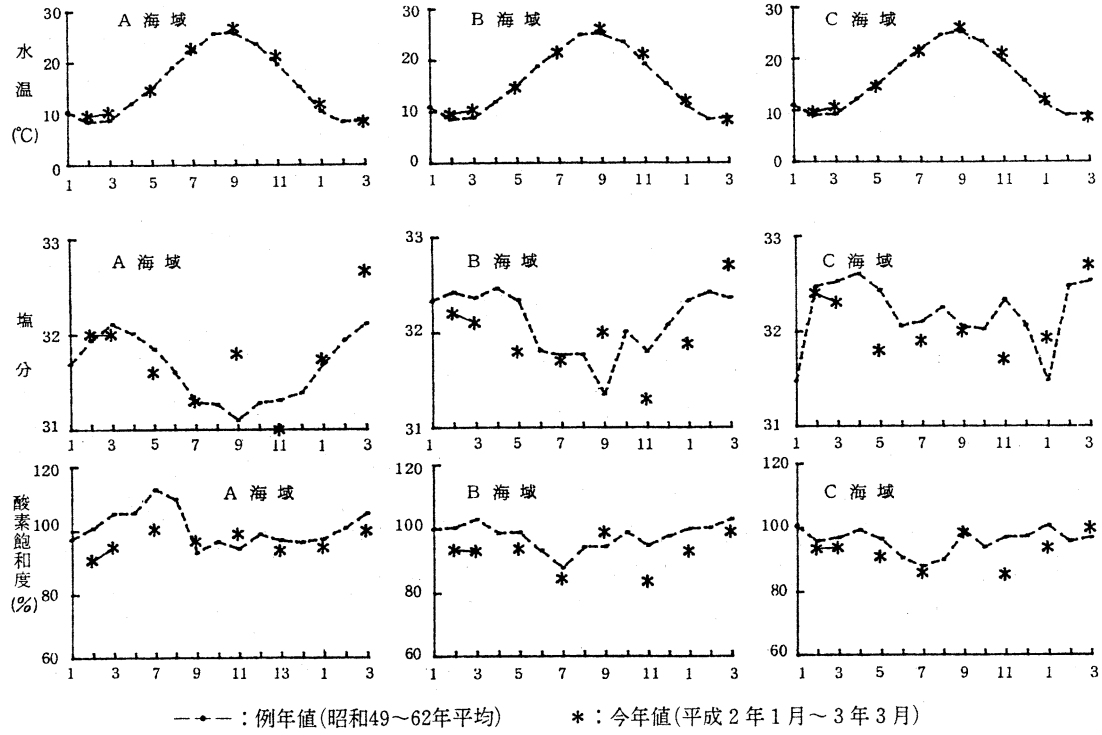


図２－１　各海域毎の水温・塩分・酸素飽和度の推移

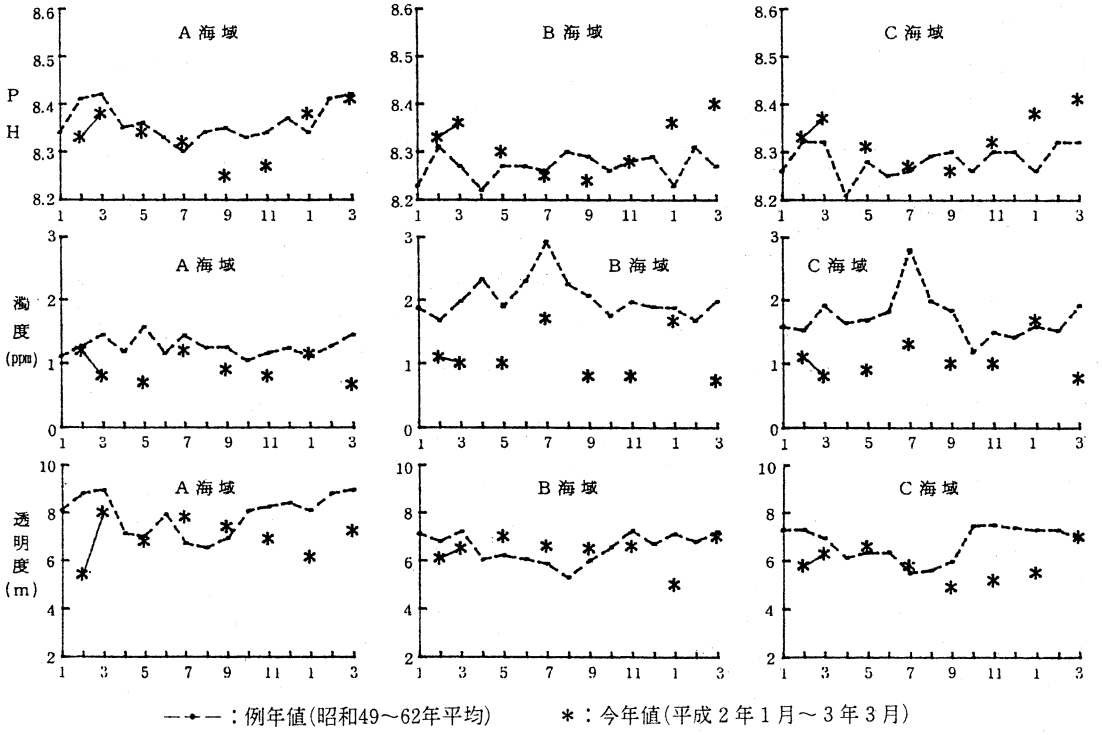


図２－２　海域毎の pH・濁度・透明度の推移